

トップ記事詳細 [2004.12.09]

神仏・宗派を超えて連携 / 神話の里に巡礼コース / 出雲の国「縁座の会」発会

島根日日新聞

国引き、国譲り神話が今も息づく出雲地域を舞台に七日、神仏・宗派を超え、著名な二十社寺による「出雲の国 社寺縁座の会」が発足した。一番の出雲大社から二十番の日御碕神社まで、神話の里をぐるりと巡る新しい巡礼コースも開設する予定。来年四月二十三日に開く、合同の平和祈願祭を皮切りに霊場を開く。

同日、出雲大社で開かれた発会式で、清水寺の清水谷善圭貫主を座長に、美保神社の横山直材宮司を副座長に選出した。

新しく設ける霊場「出雲国神仏霊場」は、国引き神話の里を舞台に、一番の出雲大社を出発し、島根半島を通過して九番、十番の大神山神社(米子市)、大山寺(大山町)を折り返す。帰りは中海・宍道湖の南岸を通過して二十番の日御碕神社で、ほぼ神話の里を一周する。それぞれの社寺には、参拝の証となる朱印を用意。また、社寺の名前などを記した護縁珠(ごえんじゅ)を製作し、参拝者に有料で配布する予定。四月の合同平和祈願祭と同時に始める。

宗教の壁を超えた合同の平和祈願祭などは全国各地で行われるようになったが、神仏・宗派を超えた巡礼コースは全国でも珍しい。

約三年間の準備期間は要ったものの、自然発生的に同会の構想は浮上したという。参加した一畑寺の飯塚大幸住職は「明治期に神仏は引き離されたが、古来から神仏はなかばひとつという考え方が日本人のなかにあった。(参加した)みなさんも、こんなにも優れたものがある出雲地域をもっと評価してもらいたいという思いを常々、持っていたのでは」と話している。

構想には賛成でも、神仏によって行事などの形式や習慣はさまざま。霊場の開設にあたっては、参拝の仕方から朱印の書き方まで両者に偏らないよう配慮した。飯塚住職は「文化の違う人が一緒に住もうとするもの」と三年間の苦労を振り返る。「しかし、お互いに知らないことが多かった。今回の発会を通じてお互いにいろいろと分かり合えたと思う」と意義を述べている。

発会で“ご縁”があったのは二十社寺だが、同会では今後、巡礼コース周辺の社寺も巻き込み、紹介していく方針。設立趣意書には「出雲地域では古くから人と人のご縁を大切にしてきた。神仏や宗派を超えて連携し、訪れる人々と共に悩み、喜び、共感し、新しい何かをつかんでもらうことに協力したい」としている。



[top](#)^